薬事日報
月水金 発行
薬事日報社
東京本社　〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
☎（03）3862-2141
FAX（03）5821-8757
大阪支社　〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
☎（06）6203-4191
FAX（06）6233-3681
購読料　半年19,764円（税込）　1年36,234円

鹿児島で独自IPE実施

実習中の複数大薬学生参加

薬学部がない鹿児島県で独自の多職種連携教育（IPE）が長年行われている。鹿児島県で実務実習中の薬学生と鹿児島大学の医学生、看護学生らが小グループに分かれて具体的な症例の課題や解決策を討議し、チーム医療の重要性を学ぶもの。実務実習中の複数大学の薬学生が加わるIPEは全国的にも異例で、今年は8大学35人の薬学生が参加した。運営に関わってきた鹿児島大学病院薬剤部長の武田泰生氏は「薬学部がない他の地域にも広まってほしい」と話している。

鹿大医学生などと討議

今年のIPEは10月中旬に5日間の日程で実施。約270人の大学生が32グループに分かれ、新型コロナウイルスの感染拡大を受けてオンラインで討議や発表を行った。

薬学生は、期間中に鹿児島県内の病院や薬局で実務実習を受けている5年生35人が参加。全体の半数に当たる16グループに加わり、鹿大医学部で医学、看護学、理学療法学、作業療法学を学ぶ4年生約230人に混じって意見を交わした。

薬学生のうち、病院実習中の学生は13施設32人、薬局実習中の学生は3施設3人。ふるさと実習で鹿児島に戻ってきた薬学生が多い。所属先は、神戸学院、同志社女子、九州保健福祉、山口東京理科、崇城、第一薬科、長崎国際、福岡国保健学科、同病院薬剤部の計8大学で、九州圏内だけでなく関西方面にも及んだ。

IPEの指導に当たったのは、鹿大医学部医学科、同病院薬剤部の教員やスタッフ約20人。事前準備や当日の進行、症例の課題発見や解決のコンサルテーションなどを手がけ、学生を支えた。

薬学生は初日、多領域の学生による小グループの一員となり、大腸癌患者の初期診療と支援のあり方、化学療法のレジメン選択や副作用対策などを討議。その後、薬学生のみが集まって議論を深めた。2日目は追加情報を得た上で同様に討議し、3日目には各グループから選抜された学生による模擬カンファレンスやグループでの発表を行った。

4日目以降は同様に、治療開始1年後の在宅医療移行の課題をグループで話し合った。

独自のIPEは2013年度から始まった。当時、鹿大医歯学教育開発センター長を務めていた田川まさみ氏から依頼を受けた武田氏が中心になって各方面へ働きかけ、鹿大病院で実務実習中の薬学生がIPEに参加する体制を実現した。

当初は医学生と薬学生の2領域で始まったが、その後、看護学、理学療法学、作業療法学の学生も加わるようになり規模が拡大した。

薬学生も14年度以降は鹿児島県下全域の病院実務実習生を対象とし、15年度以降は薬局での実務実習生にも声をかけるようになった。

実務実習の一環として、実習施設の指導薬剤師や所属大学の理解のもと自由意思で参加する形だが、参加者数は段階的に増加。実務実習期間の年間区分けが3期の頃には、毎年70～80人の薬学生が参加するほど盛況になった。今年のIPEにも鹿児島県内で病院実習中の薬学生の9割以上が参加するなど、地域に定着している。

今年度から鹿大医歯学教育開発センター長として赴任した横尾英孝氏は「今回のIPEで医学生から『薬の知識がいかに不足しているかを痛感した』との声を多く聞いた。薬学生に良い刺激を受けた」と話す。

同病院副薬剤部長の寺薗英之氏は「薬学生からは『同世代で一つの症例について討議できたことが印象深かった』との声があった」と言及。同副薬剤部長の屋地慶子氏も「薬学生は毎年、職種間でこんなに視点が違うのかと驚く。その結果、他者を尊重する姿勢が生まれ、自身にも薬剤師としてのプライドが生まれる」と効果を語る。

武田氏は「薬学部や医学部が学内に揃う大学ではIPEは可能だが、そうでない大学は多い。その場合でも、ふるさと実習で戻ってきた時にIPEを受けられるのは薬学生にとって良い経験になる。他の地域でもぜひ広まってほしい」と話している。

中間年改定に影響限定的

有識者検討会での議論

薬価専門部会

中央社会保険医療協議会薬価専門部会は9日、来年度に実施される中間年改定に向け、「医薬品の迅速・安定供給に関する有識者検討会」が取りまとめた議論の論点を共有した。厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課の安藤公一課長は「来年4月に有識者検討会の取りまとめを行う。論点としては短期的な対応は考えていない」と説明。議論の方向性が2023年度中間年改定に及ぼす影響は限定的となりそうだ。

中間年改定に向けた議論の進め方については、有識者検討会での検討を踏まえ、中医協で議論を深めることとなっている。厚労省は、これまで5回の開催で議論の論点を整理し、薬価専門部会に示した。

全体的課題として、医療保険制度の持続可能性を確保した上で、革新的な医薬品の創薬力の強化や迅速導入、医薬品の安定的な供給を図る観点から今後の薬価制度、マクロ的な視点から総薬剤費のあり方を検討する。

革新的な医薬品では「患者視点を踏まえ迅速な導入が図られるよう議論を行う必要がある」と明記。新薬創出等加算や市場拡大再算定の運用や制度のあり方や薬価算定ルールの改定類度を検討していく。

医薬品の安定供給については、中小の後発品メーカーを中心に少量多品種の製造が行われている産業構造や、特許切れ直後の品目に偏った現在の収益構造の見直しを論点とした。最低薬価、不採算品再算定、基礎的医薬品等の必要な薬価を維持する仕組みについて、運用や制度のあり方を検討する。

薬価差については、薬価差が生じる構造を踏まえ、医薬品の取引条件や取引形態の違い、医薬品流通、医療機関等の経営への影響を考慮しつつ、薬価改定のあり方を検討するとしている。

ポライビー薬価据置き

費用対評価案を了承

中医協総会

中央社会保険医療協議会総会は9日、中外製薬の抗癌剤「ポライビー点滴静注用」（一般名：ポラツズマブ ベドチン）の費用対効果評価案を了承した。

比較対照技術に比べ、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する2次治療、3次治療以降共に、再発の悪性リンパ腫に対して実施するR-ICE療法を比較対照とした結果、いずれも「200万円／QALY以上750万円／QALY未満」で、価格調整係数は1・0となった。

同剤は、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫を効能・効果とする抗癌剤。NCCNガイドラインで最も推奨されるレジメンに位置づけられていることから、5%の有用性加算がつけられており、薬価は30mg1瓶が29万8825円、140mg1瓶が136万4330円としている。予測販売額がピーク時の10年目に120億円としているため、費用対効果評価の対象となった。

次治療以降のいずれも価格調整係数1・0を示した。今後、総合的評価のもとで価格調整が行われる予定だが、薬価は据え置きとなる見通し。

この日の総会で示された費用対効果評価案では、再発または難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫のうち、2次治療、3次治療以降共に、再発の悪性リンパ腫に対して実施するR-ICE療法を比較対照とした結果、いずれも「200万円／QALY以上750万円／QALY未満」で、価格調整係数は1・0となった。

無季言

◆今週8日の「いい歯の日」を機に、全国で様々な歯科保健啓発活動が展開されている。この日に先がけ、ロッテが子供の〝噛む力〟を調査したところ、都道府県別で噛む力が高かったのは秋田県だった◆調査は3～12歳の子供を持つ親2250人を対象に、9月にウェブで実施した。子供がよく噛むことに対する親の意識、子供の夕食時の一口当たりの咀嚼回数や行動などの数値を同社の基準で点数を付け、偏差値で算出した◆よく噛むことの重要性を認識している親は多いが、子供は「どちらかといえば軟らかい食べ物を食べることが多い」とする親が7割強を占めた。また普段から口腔機能の健康のために実践していることを聞くと、約6割の親が子供に「何もしていない」と回答した◆食文化が変化し、ファーストフードをはじめ軟らかく加工した食べ物が増え、子供に限らず〝噛む〟離れが進んでいる。グルメ情報が氾濫気味の現代、美味しさの追求ばかりでなく、日常的に〝噛む〟ことを意識し、口腔機能を鍛えることが大切だ。

きょうの紙面
抗菌薬原薬の国産化へ政府……2
同時流行に備えを八神医薬局長…3
16成分20品目を薬価収載…4～5
創薬研究に患者の声中外製薬……8

本号8ページ

私たち高田製薬は常に患者様の服薬アドヒアランス向上、医療従事者の使用利便性向上、また、医療過誤リスクの低減などの高付加価値を有する医薬品開発を目指しています。
私たちが常に大切にしていること、それは「信頼」です。
長年培ったノウハウと、時代を見越したオリジナリティあふれる製品で、これからも人びとの健康に貢献してまいります。

―人びとの健康を願って―
高田製薬株式会社
www.takata-seiyaku.co.jp